

一般社団法人日本人間工学会第56回理事会 議事録

1.開催日:2021年4月23日(金) 17:00~19:00

2.開催場所:Zoomによる遠隔会議

3.出席理事:<敬称略>

・理事会構成員(27名・定足数14名以上)

(理事):吉武良治(理事長),下村義弘(副理事長,国際誌),青木洋貴(学術),易強(企業活動),石橋基範(総務),榎原毅(編集,国際誌),笠松慶子(財務),加藤麻樹(若手支援),辛島光彦(財務),狩川大輔(安全),小谷賢太郎(国際協力),境薫(若手支援),三林洋介(戦略ロードマップ),佃五月(企業活動),中川千鶴(総務),中本和宏(戦略ロードマップ),松岡敏生(広報),山田クリス孝介(広報),横山清子(学術)

[19名]

(理事兼支部長):平沢尚毅(北海道),本多薫(東北),斎藤真(東海),矢口博之(関東),久保博子(関西),内野英治(中国・四国),村木里志(九州・沖縄,編集,国際誌)

[7名]

[計:26名]

(欠席者):鴻巣努(表彰),佐藤洋(JENC)

・監事:青木和夫,大須賀美恵子(第62回大会長)

・オブザーバー:鳥居塚崇(国際),堀江良典(表彰),八木佳子(認定機構)

・事務局:西原彩,米倉裕美

※全員ネット会議出席者

#### 4.議事概要

定足数14名を超える26名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後,定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

#### 【審議事項】

##### (1) 第1号議案 日本人間工学会第62回大会 準備状況について(大須賀美恵子大会長)(資料5:p.1)

大須賀大会長より大会の準備状況について報告があった。企画シンポジウム11件,発表96件,優秀賞応募者29件とのことであった。懇親会の開催方法については検討中である。実施形態は完全オンライン,参加費はオンラインとなっても減額なし,発表の聴講はリアルタイムとすること(録画配信は演題登録時に許諾を得ていないので録画せず)について承認された。また,当日聴講者には録画とスクリーンショット不可と伝えることを確認した。

##### (2) 第2号議案 2021年定時社員総会開催及び資料について(理事長・総務・財務)(資料3)

総務の石橋理事より,2021年定時社員総会資料について,説明があった。資料へのコメント等の締切は5月6日(木)中とする。財務の辛島理事より,財務状況について説明があった。2020年度については,臨時収入としては第61回大会より約108万円寄付,ISO業務受託190万円,事務所立ち退き料100万円であった。支出では活動費半分要請およびコロナ影響等により予算案に対し580万円減額となり事業活動比450万円の黒字となった。2021年度収支予算については,収入見込みは前年度とほぼ同じとし,支出では支部活動・部会活動費は半額,委員会活動費は希望を伺った上で原則半額とする。JES本体の活動収支の差額は実質△8万円である。

##### (3) 第3号議案 2021年功労賞について(表彰委員会)(資料2:p.1-2)

表彰委員会の堀江委員長より、功労賞 9 名、論文賞 1 件、研究奨励賞 2 件、GP 賞として特別賞 1 件と優秀賞 1 件、また、トップ 10% 査読者賞 4 名の推薦があり、承認された。

#### (4) 第4号議案 ErgoDirectory の更新と HFE マップへの情報提供について (国際協力委員会) (資料 2: p.3)

小谷国際協力委員長より、IEA の HFE Educational Map への協力に関して、前回の理事会で広報委員会のエルゴディレクトリも含め、今後、国際協力委員会と広報委員会と連携して、情報の収集の仕方やアップデートの頻度など方針を決めて次回理事会に挙げるよう提案があったことを受け、広報委員会と協議した。この結果、IEA- HFE Educational Map と ERGO Directory で公開している情報はほぼ重複するため、対応策として、ERGO Directory を会員に更新してもらう案内と併せて、HFE Educational Map に情報を提供して良いかをメールで確認すること、文面については国際協力委員会と広報委員会で調整することが提案され、承認された。

また、吉武理事長より、リマインドすることも IEA との連携としてもとても良い取り組みとのコメントがあり、大会での総会、ニュースレター等で紹介するなどの提案があった。

##### 【報告事項】

##### (1) 総務報告

(1-1) 石橋総務理事が、一般社団法人日本人間工学会第 55 回理事会議事録について報告した。

##### (1-2) 会勢報告 (3月31日)

2021 年 3 月 31 日現在、会員数 1,329 名 (2020 年 3 月 31 日から -8 名: 正会員 -15 名, 準会員 +7 名), 賛助会員 26 社 27 口 (-1 口)。

##### (1-3) メールによる審議および報告事項等の結果について (1 件)

第 55 回議事録案のメール審議の結果、承認されたとの報告があった。

##### (1-4) 全国大会における講演集の呼び名・位置づけについて (継続審議案件) (資料 4)

全国大会における講演集の呼び名を、人間工学誌の特別号とするか大会講演集として独立させるか (J-Stage での扱いも含め) についてメリット・デメリットと共に説明があった。人間工学誌の特別号とするメリットとして、発行主体が学会であることの明示や一貫性、J-Stage への掲載手続きの容易さ等が示され、特に問題となるデメリットがないことから全国大会の講演集を「人間工学誌特別号」とすることが提案され、承認された。

※ 斎藤東海支部長より、2011~2012 年に大会講演集として出された経緯について、論文誌の責任箇所が違ふことが影響した可能性があるとの指摘があった。

##### (2) 財務報告

辛島財務理事より、2021 年度収支計算書(案)が提示され、会計状況の報告があった。

##### (3) 第 62 回大会 (2021 年) 準備状況

大須賀大会長より、大会準備の進捗状況について審議事項第 1 号議案の中で報告があった。吉武理事長より、非常に困難であるハイブリッド開催への尽力について謝辞が述べられた。

##### (4) 担当・委員会報告

##### (4-1) 広報委員会

山田委員長より、ホームページ、ニュースレターを中心とした広報活動の報告があり、学会活動を更に活性化・見える化するため、各委員会・研究部会に対し積極的な情報提供の依頼があった。また、各支部の研究発表・研究成果のうち許諾を得られたものの PDF 公開の案内もあった。

##### (4-2) 編集委員会

榎原委員長より、2021 年 4 月号と 6 月号の掲載数の報告と、掲載までの査読期間短縮の報告と投稿呼び掛けの依頼があった。また、エディトリアルとして、投稿規程と執筆要領-執筆要領チェックリストを 57(2) の掲載、大会での論文投稿から掲載までのポイントを解説する編集委員会企画講座について報告された。

チェックリストの HP 掲載に関しては、改めて事務局に依頼することとなった。

(4-3) 国際協力委員会

小谷委員長より、日韓共同シンポについて先方と協議中だが、刻々と変わるコロナの状況なので、先方希望の10~12月という案など日程含め継続審議中との報告があった。

(4-4) ISO/TC159 国内対策委員会

報告事項なし。

(4-5) 表彰委員会

優秀発表奨励賞の選考手続きを進めている。

(4-6) 安全人間工学委員会

狩川安全人間工学副委員長より、芳賀安全工学委員長がエリック・フルナゲル氏をIEAのエルゴノミクスディベロップメントアワードに推薦した。安全人間工学シンポジウム 2021 共催、日程は6月30日に決定、産業組織心理学会部門研究会共催の準備を進めていると報告があった。

(4-7) 学術担当

横山学術担当より、横幹連合の理事として青木洋貴先生を選出、5月17日の総会で承認予定、学位授与機構の評価委員として小谷先生と赤松先生を推薦したと報告があった。

(4-8) 人間工学専門家認定機構

八木機構長より3点、3月6日オンラインイベントを開催、交流の場としてオンライン飲み会を4月6日に開催し有意義な交流、ISO 原案提案のためのプロジェクトを委員会形式で実施するため、委員募集したところ異なる分野の3名の応募があったこと、また経費管理について JES 監査において検討し、JES に記載すること、CPEとしての総会は4月30日に開催予定だが、例年実施していた講演会行わず、後日開催の予定との報告があった。

(4-9) 若手支援委員会

境副委員長より、修士や博士課程を修了した後のキャリア形成に役立つような講師を招いてのオンラインのイベントを検討中である。

(4-10) 企業活動推進委員会

易委員長より、コロナ影響で活動がままならなかったが、オンラインを活用した活動をしていきたいと考えている。

(4-11) 人間工学戦略ロードマップ委員会

三林委員長より、2006年に技術戦略ロードマップ、2008年に改訂版を発刊し、その後は意見収集にとどまっていたが、ワーキングを拡大し若手も取込具体的な策定に向けて動き出したところである。

(4-12) 国際誌検討委員会

榎原委員長より、前回理事会報告以降、特に新たな内容はない。

(4-13) 子どもの ICT 活用委員会

吉武理事長より、柴田委員長が文科省のデジタル教科書の委員会に参加されていること、検討の一例として、こどもにとってのブルーライト影響(眼鏡配布等)などの議論も行っていることが報告された。

(5) 支部報告

(5-1) 北海道支部

平沢支部長より、報告事項なし。予算半額を受け状況が厳しく、2020年支部大会は支部大会長が開催したが、今後この予算では引き受け手がなくなる懸念が示された。これに対し、吉武理事長から、各支部の事情を勘案して進めたいので適宜相談してほしいとコメントがあった。

(5-2) 東北支部

本多支部長より、ハイブリットやオンラインを駆使しながら進めていきたい。

(5-3) 関東支部

矢口支部長より、活動費半分ということもあり、オンラインで進める予定である。いろいろ工夫しながら進めたいのご協力をお願いしたい。

(5-4) 東海支部

斎藤支部長より、3/20に支部役員会を開催、4/10に総会を開いた。予算締切を間違えていたので次年度決算で計上したい。

(5-5) 関西支部

久保支部長より、3/27に支部総会を実施、優秀発表賞3名を決定し表彰した。ビックデータ研究会と共催でオンラインセミナーを開催した。来年度12月の支部大会もオンラインとなる可能性が高い。

(5-6) 中国・四国支部

総会資料の通り。補足として、広島県商工労働局内のひろしま感性イノベーション推進協議会との共催イベントの可能性を検討しており、臨時役員会で審議予定である。来年度の63回大会開催に向け準備を進めている。

(5-7) 九州・沖縄支部

村木支部長より、昨年沖縄で開催予定がコロナでオンラインとなった。今年度は沖縄開催を検討している。12月16、17日を予定し会場も抑えて、ハイブリット方式を検討している(場合によってはオンライン)。沖縄には会員がいないので、会員を増やすという意味でも現地開催をしたいと考えている。

(6) その他

(6-1) 今後の理事会日程について

次回第57回理事会は5月21日17時から開催予定。

(7) 閉会

以上の議事を終え、19時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2021年4月23日

代表理事

吉武良治<sup>Ⓜ</sup>

監事

青木和夫<sup>Ⓜ</sup>

監事

大須賀美恵子<sup>Ⓜ</sup>